北海道　旭川市消防本部

北海道　旭川市消防本部
消防長　　小野田　実

水と緑に輝く　北の拠点　旭川

北海道のほぼ中央に位置し、人口約35万人の北海道第２の都市、旭川。周囲を雄大な大雪山連峰に抱かれ、街中には石狩川をはじめとする168本もの河川が流れ、四季折々の表情が美しいまちです。上川盆地の中に位置しているため、夏と冬の寒暖差が大きく、夏は30度以上から、冬はマイナス25度以下と、実に60度もの寒暖差があります。とりわけ、寒さの厳しい冬には、一面銀世界に覆われ、ダイヤモンドダストを見ることもできます。また、近年全国的な人気を誇るようになった旭山動物園をはじめ、冷涼な気候と広大な大地を活かして育まれた良質な米やそば、ラーメン・しょうゆ焼きそばなどの名物を背景に、観光を切り口とした新たなまちづくりの展望が開けつつあります。平成22年からは「北の恵み食べマルシェ」と題して、北海道最大級の食のイベントを開催し、毎年延べ70万人以上の人々が北の食文化に触れて、賑わいを見せています。本市では、このような貴重な財産である地域資源の魅力を改めて認識するとともに、人が輝き、北の文化がかおるまちになるよう、市民自らが参加し行政と一体となってまちづくりに取り組んでいます。

旭川のゆるキャラ
「あさっぴー」

食べマルシェ

消防体制

旭川市消防本部は現在、管轄面積747.6㎢に１本部２署９出張所３分遣所を配置、さらに、平成20年からは防災活動拠点として総合防災センター中核施設の運用を行い、職員364名で日夜市民の安心・安全の確保に努めています。また、地域防災の要である旭川市消防団は、１本部34分団673名の消防団員で組織し、地域の消防防災リーダーとして地域に密着した様々な活動を展開しています。

安心・安全都市の実現に向けて

旭川市は30年以内に震度６弱以上の地震が起きる確率が0.2％とされ、地理的に台風の影響も受けにくく、全国的にも有数の災害が少ないまちであると言えます。しかしながら、いつ起こるかわからない災害に備え、いかに市民の防災意識を高め、さらなる安心・安全都市を実現するかが今後の課題です。今年の２月には、初の冬季防災訓練を実施し、気温マイナス25度の中、避難所生活を体験することで、今後の避難所生活の参考となる備蓄物品などの様々な意見を得ることができました。また、本市では、一人暮らしの高齢者などに火災・救急などの緊急時の連絡体制を確保するため、緊急通報システム「ホットライン119」を運用していますが、市民の高齢化が進むとともに利用希望者が増加したため、このシステム事業の安定性や利用者の公平性の確保、また、郊外地域の設置拡充などを目的に、平成23年に条例を制定・施行しました。さらに、消防団や婦人防火クラブと連携し、高齢者への戸別訪問による防火指導などの強化を図り、高齢者への安全・安心の確保に努めています。

総合防災センター中核施設

冬季防災訓練

結びに

大きく変化する環境の中、市民の消防行政に対する期待や需要はますます高まっています。旭川市消防本部は、「安心・安全都市あさひかわ」の実現に向けて、各関係機関との連携や地域に根ざした活動を通して、市民の皆様の負託に応えるべく、全力で消防行政に取り組んでいきます。